

# 青峰同窓会 会報

2005年号



## 会長挨拶

青峰同窓会会長 小手川 智 (42C卒)

昨年から今年にかけて台風の襲来や大地震の発生など、天変地異の多い一年でしたが、同窓会員の皆様におかれましてはお変わりなくお過ごしのことと存じます。毎年同窓会報を発行するこの時期が来ますと、もう一年が過ぎたのかと思ってしまうほど月日の流れは速いです。会報で報告させていただくことは別途に鈴鹿高専のホームページで卒業生向けの様々な情報が掲載されておりますので是非ご覧下さい。この一年間で印象に残った出来事を紹介します。ご存知のように高専ロボコンという大会が毎年秋から暮れにかけて開かれております。昨年11月に東海北陸地区の大会が鈴鹿で開かれました。私は観戦の機会がありましたのでその時の後輩たちの活躍ぶりを見ることができました。鈴鹿高専Aチームは準決勝ですごいことをやりました。開始早々敵が陣地を奪って、誰が見ても鈴鹿高専Aチームの負けが確定した状況でしたが、後輩達は諦めることなく、黙々と愛機を操縦していました。最初は時間潰しでもしているの



かと思っておりましたが、徐々に形勢が変わっていくのを見て、手に汗握る感覚でこの光景に見入ってしまいました。形勢は全く逆転し、勝ったと思ったのですが、選手達は喜びのあまり、一人しか入ってはいけないうちで3人入ったことにより判定は反則負けとなって誠に残念でした。最後の最後まで決して諦めない姿勢は立派であったと思います。この会報が届く頃に今年の大会が開かれています。NHKTVで放送されますので観戦下さい。同窓会員の皆様のご健勝をお祈りしてご挨拶といたします。

## 目次

1	会長挨拶	2	5-3	電気(電気電子)工学科の近況	10
2	久保田元校長叙勲パーティー	3	5-4	電子情報工学科の近況	11
3	同窓生からの便り		5-5	生物応用化学学科の近況	12
3-1	荒木田 秀明(47E卒)	4	5-6	材料工学科の近況	14
3-2	今井 正人(01E卒)	5	6	SHTNIに参加してみませんか?	15
3-3	児玉 謙司(13M卒)	6	7	会計報告	16
4	退職教職員	8	8	編集後記	16
5	学科近況				
5-1	一般科目の近況	9			
5-2	機械工学科の近況	10			



## 久保田郁夫先生を囲んで「瑞宝中綬章」受章記念祝賀会

祝賀会幹事 松林 嘉熙

平成17年4月29日、恒例の春の叙勲で、鈴鹿高専第3代校長・久保田郁夫先生が教育一筋40年のご功績により「瑞宝中綬章」を受章されました。

先生は昭和41年4月に三重県から鈴鹿高専に異動、以来英語を教えるかたわら学校経営に早くから参画され、図書館主事、教務主事等を歴任ののち、昭和60年4月から平成5年3月まで8年間、校長として鈴鹿高専の運営に卓抜した指導力を発揮されました。

このことは鈴鹿高専にとってまことに晴れやかなニュースで、すぐさま祝賀会をとの声があがりました。しかし日頃の先生のお人柄を忖度すれば、八方に案内状を出して大騒ぎして構える会ではなく、鈴鹿高専関係者に限った自然体のつつましい席がなによりと幹事間で話し合い、久保田先生のご意向も承りながら準備を進めました。会の趣旨は、久保田先生のもとにあって長くそのご鞭撻をうけた教職員および担任学級卒業生による、ささやかなお祝いの場、としました。

6月19日午前11時、四日市都ホテル16階の会場には西沢芳信先生はじめ旧教員13名、鈴木満子さんをはじめ旧職員14名、川口宗弘さん



はじめ卒業生6名、長瀬治男先生はじめ現教職員21名、合計54名が集まりました。

会の次第は、代表幹事の趣旨挨拶、花束贈呈、主賓の久保田先生のご挨拶、中根校長の祝辞(齊藤副校長代読)、祝電披露があり、乾杯ののち2時間の祝宴になりました。宴席についているのは皆、旧知の間柄でしたので、どの席も和気藹々でした。久保田先生にはテーブル毎のスナップ写真撮影の機会を設けていただきました。おかげで、ご受章をひとつの契機として、さながら鈴鹿高専の合同同窓会が実現したような雰囲気でした。なによりも主賓の久保田先生に、13年ぶりに鈴鹿高専の香りの中でくつろいでいただけたのが幸いなことでした。



## 同窓生からの便り

### 38年間を振り返って 荒木田 秀明 (47E卒)

鈴鹿高専電気工学科を卒業して早33年が過ぎました。38年前の4月、希望と不安に胸を膨らませて本校の門をくぐったように思います。生まれて始めて親元を離れての寮生活の始まりでした。待っていたのは、昨今のゆとり教育とは似ても似つかない生活でありました。朝7時の点呼に始まり、グラウンドでのランニング、体育館での柔剣道、授業、クラブ活動、夕食、入浴、夜の点呼、夜学習といった息つく暇もないほどの生活に驚いたものでした。当時は反発心から怠惰に奔ったり、級友達と悪さをしたりしましたが、今から思えばなつかしくもあり、その時の経験はどのような過密スケジュールにおいても時間を有効に活用できる能力が身についたという意味で、その後の社会人生活において大いに役だってきたように思います。

社会人になってからの生活は、2つに大別できます。最初の就職先である神鋼電機での19年間、そして現在の会社での14年間です。神鋼電機での配属先は駅務機器用の券売機等を設計する部門でした。入社直後、マイコン4004がインテルから初めて世に出されました。そこで、それまでハードロジック制御であった券売機等の制御をマイコン制御化する機会を得ることができました。当時はハード・ソフトといった垣根もなく、電子回路設計・基板アートワーク設計・制御ソフト設計と言った一連の設計業務を全てまかされていました。現在のように開発ツール・デバッグツールも豊富でなく、デバッグは自分の頭の中が頼りで、アセンブラ言語との格闘の毎日でした。これが私の技術者としてのスタートであり、この時の経験がその後の私の技術者としての



ステータスの原点となっています。

また、中学、高専時代を通じて野球をやってきた経歴から、入社直後に実業団チームとしてのソフトボール部に勧誘されました。最初は女の子の遊び程度に考えて入部したところ、いざ実際にやってみると野球よりスピーディで、しかもなかなか打てない。こんちくしょうと思って始めたが最後、元来野球好きの私でしたが、以後19年間ソフトボールの虜になってしまいました。定時まで仕事をやり、一旦仕事を中断し日没まで練習、その後夜遅くまで仕事をやる。まさに青峰寮時代を彷彿とする毎日でした。おかげで54歳になった今でも体力には自信があり、馬鹿の一つ覚えのように2つのシニアチームでソフトボールと軟式野球を続けております。写真は野球チームのユニホーム姿です。

元来、仕事をしていく上で自分達のやった結果がそのまま組織全体の成果として体現できるような所で働きたいという願望がありました。丁度40歳になるころ、たまたま元上司から開発設計会社を立ち上げるので参画しないかと誘いを受け、19年間お世話になった神鋼電機を退社し、現在のエフエンジニアリング株式会社の立ち上げメンバーのひとりとして参画し、現在に至っております。最初3名でスタートした会社であります。14年間顧客に恵まれ、仲間にも恵まれ、鈍行ながら順調に運営を続け、現在は15名となっております。業種がら、世の表舞台に出ることは

なかなかありませんが、小規模ながら我々が手がける分野ではキラリと光る存在であることを常日頃目標に掲げてやっております。主な事業内容はメカトロニクス機器（精密機構・電子回路・マイコンソフトで構成された機器、例えば貨幣・カード・紙等の媒体をハンドリング・磁気処理・印刷等を行う産業用機器）の開発設計、試作、評価、

生産です。生産についてはファブレス方式を取っており、実作業は全て協力会社をお願いしています。興味を持たれた方は是非HP (<http://www.f-engineering.co.jp>) をご覧になってください。因みに当社には本校卒業生が私を含め、3名在籍しています。では、また何かの機会にお会いできることを楽しみにしております。

### 高専を卒業して 今井 正人 (01E卒)

高専を卒業して早いもので既に16年半が過ぎてしまいました。先日、卒業研究の担当教官だった北村先生に某所で偶然お会いし、それがきっかけで今回同窓会報に近況を投稿することになりました。

まず、卒業後は米国系のコンピュータメーカーに就職し、主に生産試験技術エンジニアとして、パソコンやHDDに使われる回路実装基板の製造工程の立ち上げや、それらの試験装置の開発等に携わっていました。製品試作や量産が始まる前に、協力工場へ出張となるわけで、最初は日本各地の協力会社での生産でしたが、製品の低コスト化の流れで生産拠点を海外へと移り、出張先も当然海外へ。入社当時、出張自体の中身も変わってますが、海外出張は一部の限られた人のことと考えていたので、ずいぶんと身近なところにやってきたなと思ったものです。しかし、身近とは言ったものの、TOEICスコアというハードルがきっちりあり、クリアするまではずいぶんと泣かされました。行き先はフィリピンに始まり、タイ、マレーシアなどの東南アジア、ついには中国（シンセン）まで行く事に。各地でエンジニアならびに製造オペレータの人達と接するわけですが、お国柄



というか国民性なのか、それぞれの対応や考え方が、当然のことながら日本のそれとはまったく異なり、その辺りの意思疎通の面ですいぶんと苦労させられました。

さてこのまま、いわゆるエンジニアとして会社員生活を送っていくものと思っていたのですが…。

ある日、地元での中途者採用の試験案内を発見、年齢的にも枠ぎりぎりでしたし、自分の力試しぐらいのつもりで採用試験に挑みました。多くの運と偶然が重なったといえるのですが、結果会社を退職、滋賀県の居所を引き払い、現在は地元の市役所で、公務員をやっております。技術屋という稼業（エンジニア）に憧れて高専を選択したわけで、これでいいのかと正直決断するまでには、ずいぶんと時間がかかりましたが、最終的には技術的な仕事をする人＝エンジニアではないだろうと考え、今に至りました。

最初は、今までとは180度異なる職場環境に少々戸惑いましたが、一般的にはなかなか無い経験をできてるなと思っています。同期採用には自分とひと回り以上も年齢の離れた者もいるわけで、そういった面も面白い経験だなと。配属は電算システム全般の管理担当課となり、皮肉というか何というか会社勤めの時以上に、技術的な仕事に携わることになってます。現在は近隣町村との合併がいよいよ秒読みの状況で、市町村施設間ネットワークの新設や、各種システムの統合、庁内ネットワークの再構築等々の業務に追われています。

## なかずとばず、やっていますよ 児玉 謙司(13M卒)

機械工学科を卒業してもう5年、在学中、先生方には本当にご迷惑をおかけしました。この場を借りてお詫び申し上げます。また寮生活においては(特に三寮)指導という名の下に自分の欲求を満たしておりました。あの頃1年生だった皆様もついこの前に卒業だったのででしょうか、今となってはもう時効ですよ、許してくださいね。

いきなり謝罪からの出だしとなりましたが、私の方は幾度と訪れた就職のチャンスをことごとく逃し、現在、奈良先端科学技術大学院大学の博士後期課程で学生をやっております。ラグビーで鍛えた体も今は見る影もなく全て脂肪となり、見事なビール腹を有しております。「24歳にもなって、お前まだ学生? 働け!」と同窓会などで久しぶりに集まると必ず言われます。風の噂でだれだれが結婚する、子供が生まれたなどと聞くと、自分は時の流れから置いてけぼりになっている気分がしてなりません。さらに追い討ちをかけるように、借りた奨学金は卒業するころにはベンツが買えるくらいにまで膨らむようです。そんな典型的なダメ理系独

また、会社に在籍していた時に始めたのですが、現在放送大学に編入学し学生もやっています。高専時代ならば(きっと)簡単に解けたであろう数式や、社会工学といった講義に悪戦苦闘しながら、なんとか単位を取得することができ、やっと卒業も見えてきました。冒頭の北村先生とお会いした某所とは、大学の単位認定試験会場だったりします。簡単でしたが、これにて近況報告を終わります。今後もエンジニアジェントルマンの気概を持って、仕事に向かっていきたいと思えます。では、またの機会に。

身男性になってしまった経緯についてお話しします。

私は厳しい大学入試を最小限の労力でスルーすることを目的として高専に入学したクチでしたので当然の如く大学に入学したわけですが、大学は某私大の機械工学科を選びました。ろくに勉強していなかったんで選ぶというよりは、そこしかなかったという方が正しいのでしょうか。大学生活は刺激のない日々の繰り返しでした。高専生活の刺激が強すぎて感覚が麻痺していたのでしょうか。なんといいですか、学生に若者の生命力が感じられない。きっと受験戦争によってポロ雑巾になっちゃったんでしょう。そのチャンスにつけこんでひそかに勉学に励みました。人生せこく、最小限にして最大限の旨みを手に入れねば。高い学費を返してもらう必要があったので、当然のように私は成績優秀者となり返還された学費で車を買ったのでした。

そんな僕にも転機が訪れました。研究室の先生とのいざこざです。なにが原因かと申しますと、先生は成果を求められますが、私は成果を出すために研究している訳ではなく、一学生として興味があ

ることをやっていたいわけです。そとづらを良くすることばかり求められるのでほんと嫌になってしまいました。そんなに成果がほしいんやったら自分でやれよって思うのですが。そのころは単電子トランジスタという電子1個でON-OFFする素子を"ツクル"研究をしていました。簡単にいうと半導体プロセスみたいなものです。しかし研究をしていくうちに自分のやっていることはパートのおばちゃんにも出来る、否、むしろ上手いはずだ。それよりも考えたい、考えるべきだ、考えなきゃならんと物の理について興味をいさぐようになったのです。「社会に出ると嫌な人間ともうまくやっていかなあかんねんで!」という母親のお話も「社会にでてからうまくやるわ。」とつぶね、今の大学に飛んでいったのでした。(両親に学費を払ってもらっているのに、今思うと偉そうだ)

ということで現在に至るわけです。今は機械工学の分野から離れて物性物理を専攻しています。とりわけ金属がもっている磁気的な性質(磁性)を研究をしています。磁性研究は古くは紀元前の天然磁石の発見から始まり、電磁気学、量子力学とともに発展してきた読み満点の学問です。私の主な研究テーマは「放射光X線を用いた磁性研究」です。放射光とは加速器によって加速されたほぼ光速で運動する電子が軌道を曲げる際に発生する電磁波です。そんな光で物質の磁気構造を調べています。このような実験施設はどこにもあるわけではないので、ことあるごとにあちこち出かけています。国内では筑波にあるPhotonFactory、西播磨のSPring-8がよく知られているところでしょうか。入学した頃は何か何まで意味不明でポカーンとしていましたが、最近では自分で計画をたて実

験し、英語論文を書くまでに成長しました。全く知らないことでもちょっと頑張れば何とかなるもんです。卒業してどうなるか分かりませんが、時間と人間関係に縛られない、まったりとした人生を熱望しています。楽しい人生しかありません。

高専を卒業して現在大学に在学されている方も沢山いらっしゃると思います。僕がいうのもなんですが、一寸したアドバイスを贈ります。学部の際にはいろいろなことにチャレンジしてください。大半の人間は理系として人生を過ごすことが当たり前であるような錯覚に陥っています。それ以外の道だってひらけているのです。何だってできます、官僚とか。それでも研究がしたければ、もしくは社会に出たくはないが社会的な身分を確保したければ修士課程にお進み下さい。決して進学ガイダンスで先生が言う「現在、理系は修士卒業後に就職するパターンが多くなっている」とか、そういう類似のセーブルスに惑わされないようにしてください。学校側の法人化で学生確保が最優先なので、修士課程に入ってしまった人は興味を持ったことをトコトンやりましょう。そして博士課程に関してはまだ在学中ですのでもなんともいえません。結構楽しいですけど。

最後になりましたが、企業で磁性薄膜関係のお仕事をされている方がいらっしゃいましたら、色々お話を聞かせていただきたいなと思います。またサンプルをわけただけでないでしょうか。よろしくお願ひします。

k-kenji@ms.naist.jp



# 退職教職員

## 理論有機化学を幼稚園でやるぞ

生物応用化学科 坂西 勝正

「なぜ?」とか「〇〇とは?」と考え、色々試していたら定年になってしまった。高専での教育面でも、学習とは?理解とは?授業とは?などと疑問に思い試してきた。

「学習」とは脳に新しい情報を入れることである。だが、脳は新しい情報を敵と見なし、自己防衛のため新情報が入ることを拒絶し、それが2時間続くそうだ。脳の拒絶を受けずに学習するには、①脳にとって「親しい」、②脳にとって心地よい「成功体験」、③脳の「好奇心」をキーワードとして各自が工夫するしかない。友達に聞くことや誉められること、好奇心のある時期に新しい分野の本を分らなくても読むことが効果的である。つぎに、「理解する」とは簡単に言うと「イメージとして描ける」ことだそうである。イメージとして描けたらどのような言葉でも言えるはずである。「5年の理論有機化学を旭ヶ丘幼稚園でやりたい」を私の到達目標の1つにしている。

インターネット検索やコピーは簡単だが、一つのことに何日も何時間も費やすことができないう今の時代にどのような「授業」が良いのだろうか?黒板に板書された専門的内容をノートに写し、専門の式と専門語を使えば、内容を理解したと学生は考えている。しかし、それらをイメージとしてはほとんど描けず、応用するのは難しいと思われる。学生の多くは普段あまり勉強をせず試験前に暗記勉強かそのためのノート整理をするそうだ。このような状況から抜け出すことができないのだろうか。

板書を少なくして、論理の進め方や内容の理解に集中できるようにパワーポイントを用

いる授業を試している。アニメーションやイメージ図を多用して論理の

進め方を解説している。重要語句の一部を空白にしたパワーポイントのコピーを授業毎に配布し、空白部分をできるだけ答えさせ、書込ませている。時間的余裕が生ずるので学生に分らないか聞き、質問をしたりさせたりして双方向型授業を目指している。授業の前後に授業を概観するのも容易である。授業直後に、情報センターの配布用ホルダーに全文のパワーポイントを担当教科全てで公開している。試験では自分で書込みをした配布物の持込を許している。記憶問題を出せないで、考えて答える問題を主に出题している。学生のテスト勉強は暗記から理解へと変わり始めている。

最後に、定年までの私の色々な我保を許して頂いた学科の教職員と学生の皆様に感謝いたします。



## 学科近況

### 一般科目の近況 奥 貞二 (45C卒)

この1年は、本当に色々なことがありました。法人化され、高専も、随分様変わりしました。教職員も、公務員でなくなり、一々呼び名も変化しました。全て、官職という呼び名は消えて、先生方は教員、事務の方々は、職員と呼ばれるようになりました。そのために、規約の条文も全部書き換えられるという事になりました。呼び名の方はとにかく、5年間の中期計画を立て、その中期計画に基づき予算が配分され、常に計画実施が審査されることとなりました。又研究費も、国家財政の逼迫から、毎年1%づつカットされることになり、その分広く外部に資金を求めるよう迫られています。

大きな流れはそれくらいにして、一般学科のこの1年を振り返ると、さほど変化はありませんが、2~3ありました。1つは、英語科の三上先生が、東大阪市の近畿大学にご栄転されました。先生は、学生に英語力を付けさせるために努力されたことはもとより、クラブ活動の、ソフトテニスを、常に優勝争いを演じるクラブにまで底上げされた功績は大きかったです。大学に替わられても、健康に留意され、活躍されることを祈念します。代わって、山口県出身の日下隆司先生が着任されました。もう1人、去年の夏から、体育科の宮崎先生が、病気で休まれているのですが、4月から、長屋憲明先生が、前期中の期限付き常勤講師として勤務されています。

それと、学校の役職交代として、学生主事を英語の松林先生が、6年間続けられていたのですが、この4月より、物理の土田先生に交代されました。その関係で、図書館主事に新しく、国語の西岡先生が着任されました。そして、一般科の主任には、松林先生が担当されることになりました。どの方も、やる気に燃えておられるので、楽しみです。

数学の長瀬先生は、この18年3月を持って定年退職されます。鈴鹿高専を思い、一般学科を5学科と並ぶ重要な1部所とするために多大な尽力を尽くされました。創設以来の鈴鹿高専を知る人が、又1人去って行かれることとなります。OBの面々も、久しく高専に来たことがないならば、随分様変わりした姿になっていることに驚くでしょう。

もう幾つか重要な話題があります。その1つが学外研修についてですが、従来、1年生は、若狭少年自然の家に、4月合宿研修を2泊3日で実施しています。2年生については、北海道10月、沖縄11月に何れかを実施してきました。今年から、学生に国際感覚を身に付けさせるということで、2年生の研修旅行を海外にしようかということになりました。色々検討し、議論を重ね、アンケート調査などを実施した結果、今の1年生が、第2学年になった年の秋に、韓国へ、3泊4日の研修旅行を実施することになり、その線で、計画を進めています。

さらに別の話題としては、学生に実力を付けさせるために、国際的に通用する学力を身につけるために、授業時間も、単位認定についても、変えたらどうかという検討に入っています。セメスター制に移行することもありうるし、現行90分から100分授業に移行することもありうる。創設以来の、しがらみ、色々な慣行を一度ゼロにして、新たなシステムを考える式に変革しようと、色々検討されているところです。それらの19年度実施を目指しています。19年度には、愈々高専も、中味も、大きく変わるようになることが必定です。

## 機械工学科の近況 藤松 孝裕 (62M卒)

機械工学科および本校の卒業生の皆様におかれましては、ますますご活躍のこととお喜び申し上げます。平成15年度のJABEE 審査（認定）と、平成16年4月からの独立行政法人化が実施されたことは、昨年の紙面において紹介させていただきましたが、本年は、11月に認証評価を受けることとなり、私ども職員は時代の流れについていくのが大変な毎日を送っております。さて、本年度も機械工学科の近況を報告せよとのことなので、例年と同じように簡単に紹介させていただきます。

はじめに、機械工学科での人事異動ですが、平成16年度におきましては該当者はいませんでした。しかしながら、本年17年度（平成18年3月）には、岡田 修 教授が定年退官される予定です。その後も非常勤講師等で来校される可能性はありますが、現在のところ未定であります。この際にお

会いしておきたい同窓生の皆様は、残りの半年間に来校されることをお勧めいたします。

現在在職しているスタッフの氏名および実験室名は下表に示すとおりであり、その他、澤辺 昭廣 技術専門職員、谷川 義之 技術職員の総勢13名で機械工学科での学生指導や研究活動に取り組んでおります。また、本校には、高価な研究設備も設置されていますので、卒業生の皆様におかれましては、会社での問題点等が本校に設置されている研究設備を使って解決できるようであれば、気兼ねなく一声おかけください。また、お近くにお越しの際には是非一度お立ち寄りください。なお、写真は、平成16年9月に慰安旅行で訪れた南知多のホテル前での集合写真です。欠席者もいますが、変わっていく先生方の様子が少しでもわかればいいのですが。



機械工学科慰安旅行 (平成16年9月) 左から、埜(前列)、富岡、澤辺、藤松、近藤、谷川、末次、民秋、岡田、仲野(欠席者:打田、大井、白井)

実験室	教官名
精密工学	富岡 巧/白井 達也
加工システム	大井 司郎/打田 元美
材料力学	末次 正寛
計測工学	埜 克己
設計工学	仲野 雄一
流体工学	近藤 邦和
熱工学	岡田 修/藤松 孝裕
振動工学	民秋 実

## 電気(電気電子)工学科の近況 奥田 一雄 (52E卒)

電気工学科卒業生の皆様方におかれましては、各方面においてますます御活躍のこととお喜び申し上げます。時が経つのは本当に早いもので、電気工学科が電気電子工学科に改名されてから今年で3年目を迎えることになりました。その間、JABEE対応、学校法人化等の流れの中で学校や学科も少しずつではありますが様変わりしようとしています。

電気電子工学科では数年前から工学実験実習の充実を目的にシーケンサ、FA駆動制御トレーニング装置、メカトロラボ(モータ制御実習装置)等の設備導入を進めるとともにこれらの実験装置を用いた新しい実験テーマを積極的に取り入れようとしています。また、第3学年では今年度からカリキュラムの改定に伴ってマイコン制御や電子物性等に関する新しい専門基礎科目もいくつか登

場してきています。今後は国際標準単位化の動きの中で更に時代やニーズに即した新たなカリキュラムの編成を計画しています。

ところで電気工学科は第4学年と第5学年の2学年だけになってしまいましたが、大変ありがたいことに就職状況は相変わらず良好な状況が続いています。本年度の卒業予定者46名のうち14名が進学希望、32名が就職希望でしたが、7月末までにはクラス全員の進路が決定しました。特に就職においては、最終的に約500社からの求人があり、改めて卒業生皆様方の日頃からの努力のおかげであると感謝している次第です。

さて、誠に残念ではありますが、来年3月末に山本先生が定年退官される予定です。先生には長年にわたり本校並びに本学科の発展のために御尽力をいただきました。退官されるまでの時間は残り少なくなってきましたが、卒業生の皆様方も機会がありましたら山本先生の研究室の

ドアを叩いていただき、積もるお話でもなさってはいかがでしょうか。尚、山本先生の後任につきましては、現時点ではまだ決まっておりません。

最後に最近のトピックとして「平成17年度大学教育の国際化推進プログラム(海外先進教育実践支援)」において本校が提出した「北米COOP WORK教育システムの構築」が採択されたことをお知らせします。本件は企業と大学との間の協調教育を実施するための事例調査等を行うもので、電気電子工学科からは川口先生がカナダのジョージアン技術大学に9月末から12月末まで出張されることになりました。その間、川口先生の授業や実験、特別活動などを電気電子工学科教員全員で何とかカバーするよう頑張っております。

思いつくままに電気電子工学科の近況を記してきましたが卒業生の皆様方には今後とも健康に留意され、益々の御活躍を期待しております。

## 電子情報工学科の近況 長嶋 孝好 (48E卒)

卒業生の皆さまには、いかがお過ごしでしょうか? 学生の就職やインターンシップ等では、いろいろとお世話になり、ありがとうございます。

さて、今回から教職員の「声」を直接聴いていただくことで、近況などをお伝えしたいと思います。

まず、今年度着任された先生をご紹介します。渥美清隆先生は、静岡大学総合情報処理センターにお勤めの後、この4月より電子情報工学科の講師として勤務されています。ご専門は、情報セキュリティです。各学科の1・2年生の情報基礎教育科目の授業を担当され、情報処理センターに関する業務に携わっています。

**青山:** 昨年、鈴鹿高専に赴任しました。2年生のプログラム設計、1・2年生の実験を担当しています。専門は神経細胞のモデル化、シミュレーション解析などを行っています。また、バイオインフォマティクスにも手をつけたところです。

**箕浦:** IT関連は進歩が早く、ついて行くのに必死です。式年遷宮のように研究室のサーバを構築しなおすとか、ホットな技術を使ったツールなどをインストールして使ってみるとか、いろいろ試して脳の肥

料にしています。研究室のサーバだけでなく、情報処理実験室のコンピュータでもやってみたくてたくさんあるのです。なんとかじっくり取り組む時間を作り出して、チャレンジしてみたいです。

**田添:** 講師・学級担任・寮務主事補として2年目を迎え、増えた担当授業や学生とのやりとりにも少しずつ慣れてきました。明らかに以前よりも先生っぽくなっています(よいことでしょうか?)。最近では学生のプログラミング能力をいかに伸ばすかをずっと考えていて、プロコンなどコンテストのサポート、授業にも新しい技術を取り入れるように、私自身ががんばって勉強しています。

**吉川:** 私は相変わらずで過ごしております。今年度は学級担任もなく気楽になりました。研究の方にも力が入られそうです。現在、研究室の6名の学生は皆進路が決まりまして、専攻科学生は外部への研究発表に向けて準備を進めております。今後も研究発表やコンテスト参加等を通じて本校の名を広めていきたいと考えております。本学科の発展のためにも卒業生の皆様のご活躍を期待しております。

**伊藤 (明)** : 私は現在、情報処理センター長と専攻科の電子機械工学専攻の副主任に当たっています。センターの演習室のパソコン(105台)は、来年度更新時期を迎えます。パソコンのように更なる性能向上、バージョンアップを目指し、私は今も授業中に計算しつくされた(?) 楽しい冗談を織り込みながら、汗かきなので夏の教室ではタオルを握り締めながら、毎日授業や卒研などに飛び回っている日々を過ごしています。

**井瀬** : 今年は学科主任になりまして、東京にも帰れない状況が夏休みまで続きましたが、「2πの日」はしっかりお祝いしました。わたしはバナナパイで祝いましたが、みなさんはどうだったでしょうか。

この記事を書いている長嶋については、今年度は3年生(51名)のクラス担任です。クラスの学生諸君に対して、進路について早めに意識してもらおうと、関係資料を提供したり、見学(工場+大学)を計画

しつつあります。また、3年生対象の新設科目「データ構造とアルゴリズム」も担当しています。(来年度は、4年生に対して、新しい科目「数値計算」が開講される予定です)

今回は紙面の都合もあり、「声」をお伝えできなかった先生方については、次の機会に掲載させていただきたいと思います。先生方は皆お元気で、教育・研究に取り組んでみえますので、ご安心ください。

最後に、学科のホームページ(<http://www.suzuka-ct.ac.jp/info>)においては、「卒業生の皆さまへ」などで有益な情報を提供したいと考えています。ときどき覗いていただければ幸いです。また、近くにお越しの折、あるいは電子メール等で、学校・学科・教職員にアクセスくださり、近況・要望・苦情?等、お聞かせいただければと思います。どうか、お元気で活躍ください。

## 生物応用化学科の近況 澤田 善秋 (50C卒)

本年3月に坂西教授が定年退職され、後任として高倉講師が赴任されました。名物先生が学校を去られることは寂しいものですが、時の流れを止めることはできません。新しい人材を迎え、前向きに進みたいものです。本学科では、私が在籍した時代(1970代)とは違い、女子学生が半数を占めるようになりました。女性の就職環境も改善されつつありますが、女子学生の全てが希望の会社へ就職できるわけではありません。OBの方々がお勤めの会社で、本校の女子学生をご採用いただければ幸いです。

下野助教授(水泳部・部長)が率いるウォーターボーイズが、全国高校選手権で昨年に引き続き2連覇を果たしました。演技構成力が評価されたとのこと。我々が持っていない未来への可能性を、若い学生諸君が発揮してくれていることを頼もしく思う次第です。

生物応用化学科では、開校以来、本校の発展に尽くしてこられたベテランの先生方がここ1~2年の間に定年を迎えられる時期に差しかかっています。懐かしい先生方がお見えになる間に、卒業生のみなさんの元気な顔を見せに来ていただければ喜ばれるかと思えます。ここで、本学科各スタッフからの一言を紹介します。

**松田 正徳教授 (学科主任)** : アベベースを守り、教育、研究に従事。生物応用化学科の1回生の3、4年担任、バドミントン部顧問、実に楽しかった。学科主任として、5年生の進路、特に就職業務で、汗をかいた。就職先で頑張ってくれることを期待して汗を拭いた。定年までの期間、学生と楽しく界面化学、触媒化学を学んでいこうと考えている。

**富澤 好太郎教授 (寮務主事)** : 毎年、新しい学生に接し、学生と共に、楽しく優しく?

授業や卒業研究に取り組んでいます。

**杉山 利章教授** : 昨年の上陸台風最多記録やギリシャオリンピックは遠い昔の話のように感じられますが、卒業生1人1人の記憶は昨日のように鮮やかです。この夏の水不足と二酸化炭素濃度の上昇、地球温暖化との関連や、昨年来の相次ぐ震度6~7クラスの地震への対処など、その対応に若い人たちの熱意が必要でしょう。皆さんの精進を楽しみにしています。

**内藤 幸雄教授** : 生物応用化学科の一員として、

授業や卒業研究に取り組んでいます。4学年の担任業務(インターンシップ等)に取り組んでいます。外部資金導入の一環として、平成15年度から植物由来の糖尿病予防特定保健食品の開発を始めました。本年から3ヵ年の文部科学省研究助成を受け、歯周病の研究を再開しました。

**生貝 初教授** : 教育と研究、いずれも成果を出さねばならない大変な時代になってきました。教育の方では今年から専攻科の担当になりました。専攻科の学生は結構自立していると思いますが、世間から見ればまだまだです。自立する学生を育てるのが今年の私の課題です。研究面では、企業、鈴鹿市、三重県、経産省を巻き込んだ研究(2件)と学内、高専、大学との共同研究(3件)が本格的に走り出しました。玉砕せぬよう頑張ります。

**岩田 政司教授 (工業化学科S50年卒, 化学工学担当)** : 日本学術振興会外国人特別研究員のホスト研究者に選考されました。7月から、高専初の外国人特別研究員としてエチオピアのM.S.Jami博士を迎え、「固液分離」に関する共同研究を行なっています。博士とともにこれまでの研究成果を国内や海外の学会で積極的に発表し、「鈴鹿高専」の存在をアピールしていきたいと考えています。

**澤田 善秋助教授** : 昨年4月に赴任し、1年が経ちました。今年から男子バレー部の副顧問も担当しています(部長として同科の淀谷先生が熱心に指導されています)。昔取った杵柄ですが、今は昔。身体が動きません。今年も東海地区では敵なし(4連覇)で全国大会へ駒を進めましたが、予選で涙をのみました(女子は全国準優勝でした)。東海地区優勝の後、胴上げをして貰いました。宙に浮くあの感触が30年ぶりによみがえり、気持ちのいい瞬間でした。また、今年から卒業研究も始めました。鉄超微粒子触媒を用いてカーボンナノチューブを作製するといった横着なことを始めました。旨いくかどうかが心配です。

**長原 滋助教授** : 今年度は担当する授業科目が大きく変わりました。まず、全学科の情報基礎教育を専任教員が受け持つことになり、長らく担当してきました低学年の情報処理の授業から外れました。そのかわり、坂西先生の定年退職に

ともなう4年生の有機合成化学の授業(5年生の理論有機化学は坂西先生が非常勤で引き続き担当されています。)と5年生の有機工業化学(後期)も担当することになりました。すでに、笠井先生の定年退職の際に2年生の有機化学の担当を交代しましたので、ほぼ有機化学系の授業科目だけを受け持っています。

**下野 晃助教授** : 昨年度に引き続き、今年も全国高校ウォーターボーイズ選手権で本校が優勝しました。工学分野ではありませんが演技の構成面では形にとらわれず独自のものを作り上げるという高専生らしさをアピールできたと思います。

**中山 浩伸講師** : 昨年2003年4月に外資の製薬会社からここに来ました。分子生物学を基盤に研究を行っています。自分で考え、その場の状況にあった行動を積極的にとれる自律・自立性を持つ人材が育つようがんばっていきます。

**高倉 克人講師** : 2005年4月より着任しました。構造有機化学に関する研究を行っています。自分と学生の双方にメリットが生じるような研究室を築けられますよう努めたいと思います。

**淀谷 真也助手** : 赴任から2年半が経ちました。石の上にも3年といいますが、今年度中にどこまで教員としての完成度を上げられるのか不安です。研究は淀谷研2期生として専攻科生一人、学科生一人を配属していただき、教育も兼ねながら地道に進めています。クラブでは今年から男子バレーボール部の部長として、少しずつ自分の色を出しながらチーム作りをしています。研究とクラブ活動の両立は中々難しいですが、優秀な卒業研究生と副顧問である同科の澤田先生のご協力もあり何とか頑張っています。学生の良い見本になれるように頑張ります。

**堀井 一夫技術専門職員** : 生物応用化学科を卒業されたみなさんは社会、学校で頑張っていると思います。本校も生物系と化学系の2本立てとなり変化に富んできました。私も百姓(植物相手)を楽しんでいます。また、各先生の顔を見に来て下さい。

**伊東 真由美技術専門職員** : 2000年4月より生物応用化学科の技術職員を務めています。仕事を楽しむ余裕を持ちたいと思う毎日です。

## 材料工学科の近況 宮崎 みよ (14S 卒)

材料工学科におけるこの一年間の活動内容を皆様に紹介させていただきます。

昨年度の独立行政法人としてのスタートに伴い、材料工学科ではさまざまな意識改革・教育プログラムの改善がなされております。しかし今年は、南部先生が名古屋大学へ研修に行っているため材料工学科の教員が1名少ない状況です。また井上先生、江崎先生の9月からの海外出張が急遽決定したため、学科主任の国枝先生を始めとする先生方は、学内の仕事に加え、学外への地域貢献事業等を分担し、大変な仕事量をこなされているように思います。そのような中でも今年は教育方針に目を向け、大きな改革がスタートした1年であったと思います。

まず教育面からですが、一昨年前より始めました近隣の小学校へ出向いて理科の授業を行う『出前授業』を、昨年度は津市の高野尾小学校と片田小学校へ出向き、「ものの溶け方」と「ものの温度とかさ」というテーマで行いました。今年度は、出前授業の発案者でもあるダナ・バリー先生をアメリカから招待して、津市の片田小学校、北立誠小学校での授業を計画しております。ダナ・バリー先生とは、材料工学科教員チームと共著で今年「はじめての科学の祭典 (Science Fair Fun in Japan)」を出版いたしました。これは科学の祭典を子供たちがうまく準備し、実行するために必要な情報や問題解決のモデル等を書いたものです。この本を出版するにあたって、材料工学科の先生方の教育や実験・実習に対する意識、姿勢は大きな変革を遂げられたと思います。これに伴い、平成17年度より学内の実験・実習の大きな見直しを江崎先生、小林先生が手がけられました。低学年の学生実験では、従来のデータを採取したり解析したりすることを目的とした実験から、学生たちが『材料』に興味を持つことを主眼としたものに変更しました。今年度の1、2年生から順に新しいテーマでの実験・実習をスタートしております。

次に、各先生方の研究等近況を以下の通りにご紹介いたします。

**梶野先生**・・・平成17年度でご退官されます。

**国枝先生**・・・セラミックスの焼成に、従来の外

部加熱方式に比べ、短時間で高速処理できるマイクロ波による内部加熱のプロセッシングをテーマとした研究を進めています。

**小倉先生**・・・現在、燃料電池関連の研究開発および技術者養成のための教育を行っています。

**井上先生**・・・アルミニウム合金のリサイクルおよび金属材料の不純物除去による高純度化に取り組んでいます。またJABEE認定された技術者教育の積極的推進に取り組んでいます。

**岡部先生**・・・今年度は3年生の担任をしています。最近の学生とは波長が合わず、とても疲れます。年の差を感じるこのごろです。研究面では腐食、表面処理の分野で研究を進めています。最近は種々の機能めっきにも取り組んでいます。

**江崎先生**・・・酸化チタンの光触媒特性の向上、次世代半導体チップ用の異方性導電フィルムの開発や鉛フリーはんだの開発に必要なSn合金の特性についての研究をしています。

**小林先生**・・・金属多層膜の合金化による耐食・耐摩耗皮膜の開発、金属バルク単結晶の育成および結晶成長機構についての研究に取り組んでいます。

**兼松先生**・・・熱処理と表面処理全般、とりわけ、熱が表面にかかる際に起こる現象に強く関心を持って研究を進めています。現在特に関心を持っているテーマとしては、①ナノサイズの結晶粒の表面処理、②食品加工用のめっき、③環境にやさしい熱処理合金めっきです。

**下古谷先生**・・・平成17年度から、オカラを中心に有機系廃棄物のマイクロ波処理による有効利用に関する研究に取り組んでいます。

**南部先生**・・・現在研修中です。

**和田先生**・・・光機能特性を有するガラスおよびセラミックスの研究を中心に研究を進めています。また、応用を考えて薄膜や球状粒子などの形状付与なども研究に取り入れています。

同窓生の  
皆様

# SHTN

## に参加してみませんか？

### SHTNって何？

SHTNは鈴鹿高専ヒューマン&テクノロジー・ネットワークの略称です。同窓生有志が集まり、技術交流や情報交換を目的に設立されました。会員は鈴鹿高専に在籍したものや教職員となっています。SHTNの活動を同窓会の発展につなげていければと考えています。

### いつ頃からあるの？

平成12年10月14日に第1回の総会・技術交流会・懇親会が行われています。その後、年1回の総会と年2回の技術交流会を定期的に開催しています（奇数回目の技術交流会はSHTN単独開催、偶数回目はSUZUKA産学官交流会と共催）。今年度は第6回総会と第10回及び12回技術交流会を開催する予定です。

### 技術交流会ではどんなことをするの？

卒業生の中で、企業で責任あるポストに就いてみえる方、自ら起業され経営に携わっておられる方、技術開発の中心で活躍されておられる方々に講演を依頼し、お話を伺います。また、学内からも技術シーズなどの話題を講演する場合もあります。

### 参加のお願い

第1回総会・技術交流会は70名程の参加がありましたが、最近参加者が減少傾向です。皆様に積極的に参加をさせていただいて会を盛り上げたいと思います。若い方の参加も大歓迎です。

第6回総会&第11回技術交流会は平成17年11月5日(土)13時から開催されます。終了後には懇親会(ティパーティー形式)もあります。参加希望の方あるいは詳しいことを知りたい方は電気電子工学科の近藤一之までご連絡下さい。

e-mailアドレス [kondo@elec.suzuka-ct.ac.jp](mailto:kondo@elec.suzuka-ct.ac.jp)



## 平成16年度 会計報告

### 収入の部

摘要	金額(円)
平成15年度からの繰越金	39,053,966
平成15年度卒業生入会金・終身会費	2,255,000
預金利息	10,469
<b>合計</b>	<b>41,319,435</b>

### 支出の部

摘要	金額(円)
会報発行経費	738,173
事務費	10,080
次年度へ繰越金	40,571,182
<b>合計</b>	<b>41,319,435</b>

## 平成17年度 会計予算

### 収入の部

摘要	金額(円)
平成16年度からの繰越金	40,571,182
平成16年度卒業生入会金・終身会費(206名)	2,266,000
<b>合計</b>	<b>42,837,182</b>

### 支出の部

摘要	金額(円)
総会、理事会等の会議費	50,000
会報発行経費	1,000,000
事務費	50,000
次年度(平成18年度)へ繰越金	41,737,182
<b>合計</b>	<b>42,837,182</b>

## 編集後記

今年も世界各地で、大きな災害や事件・事故が絶えることなくとっていいほど起こっておりますが、卒業生の皆様周りではいかがでしょうか。クラス会を開催された時などの楽しいニュースを、会報の記事として書いていただければ幸いです。

昨年からの学校法人化をはじめとして、大変厳しい社会情勢の中での鈴鹿高専の活動には、卒業生の皆様のご協力が欠かせません。皆様のご理解および協力が何よりの力となりますので、よろしくお願い申し上げます。

9月末にTVで放送されましたので、ご覧になった方も大勢みえると思いますが、この会報の表紙を飾っております

「ウォーターボーイズ選手権」での2年連続優勝など、学生もいろいろな方面で活躍しておりますので、まずは学校へお立ち寄りいただき、学校の最近の様子をご覧いただければと思っております。

北村 登(47E卒)

誌名 青峰同窓会会報  
 発行日 2005年11月  
 発行 国立鈴鹿工業高等専門学校  
 青峰同窓会 広報委員会  
 〒510-0294 鈴鹿市白子町  
 ☎0593-86-1031(代)  
 E-mail/almn@suzuka-ct.ac.jp

ホームページアドレス  
<http://www.suzuka-ct.ac.jp/~almn/>

